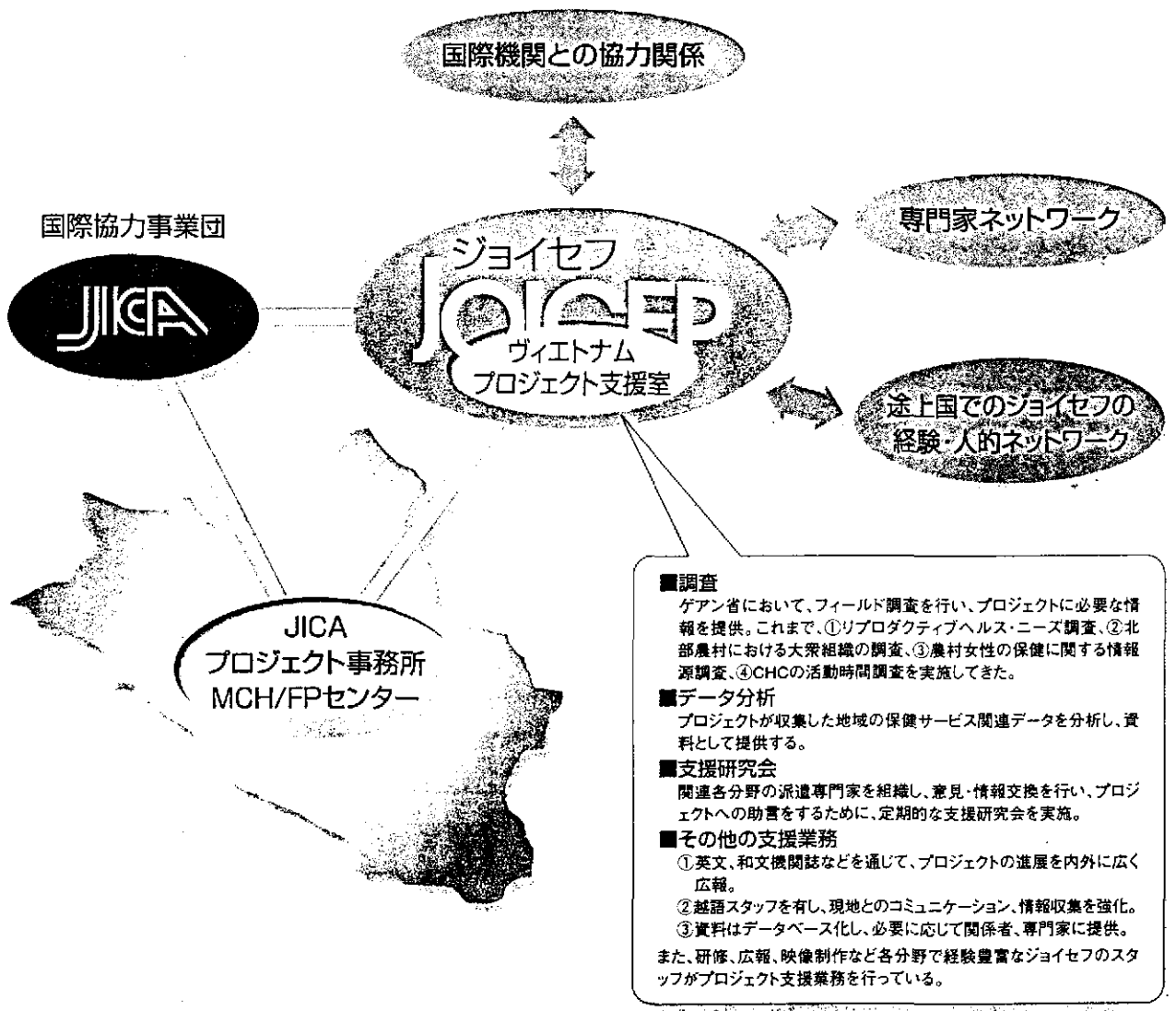


住民サイドに立った援助を目指して…

—草の根で経験豊富なジョイセフとの連携—

(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)は、人口/リプロダクティブヘルス分野における日本最大のNGOとして、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ地域の発展途上国で、30年以上の活動を続けています。途上国での人的ネットワークと、活動を支援するための日本国内の専門家ネットワークを持ち、住民参加の手法や現地にあった技術支援における豊富な経験と実績は、国際的にも高く評価されています。

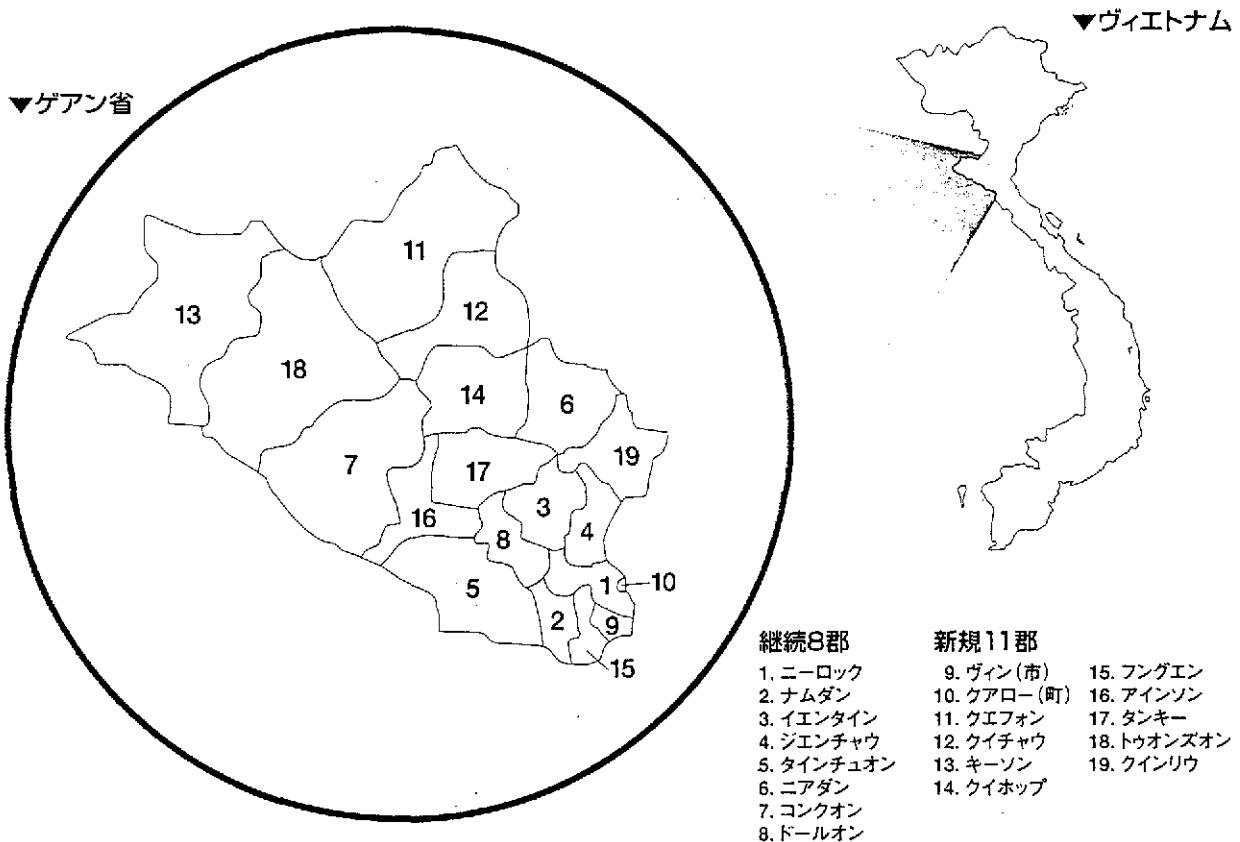
ベトナム・リプロダクティブヘルス・プロジェクトでは、JICAが草の根で経験豊富なジョイセフと連携することで、より効果的な協力が可能になっています。ジョイセフのスタッフがチーフアドバイザーとして現地へ赴任し、運営に直接関わっているだけでなく、ジョイセフ内にはベトナムプロジェクト支援室が設置され、現地プロジェクト事務所やJICAへの協力、支援体制を整え、さまざまな支援業務が行われています。



★リプロダクティブヘルス(性と生殖に関する健康)

リプロダクティブヘルスとは、妊娠・出産のシステムおよびその機能とプロセスすべての事象において、単に病気がないあるいは病的状態にないということではなく、身体的、精神的、社会的に良好な状態(Well-being)にあることをいう。(WHO、1992年)

ベトナム・ゲアン省 基礎データ



	ベトナム	ゲアン省
人 口	76,327,900人 都市人口：23.5% 農村人口：76.5%	2,858,300人 都市人口：10.2% 農村人口：89.8%
出生率	19.9/1,000人	21.56/1,000人*
死亡率	5.6/1,000人	5.5/1,000人*
自然増加率	1.43%	1.61%*
面積	332,000km ²	16,442km ² (全国土の5%) 岩手県よりやや広い面積
行政区画	61省(4直轄市含む) 597郡 10,331コミュン(山岳地5,286)	1省 19郡(1市、1町含む) 466 コミュン(山岳地225)
世帯あたり可耕地面積	0.5ha	0.27ha
GDP Per Capita (98年)	4,022,300VND (US\$287)	2,420,710VND (US\$173)
保健・医療スタッフ	人口403人あたり1人	人口426人あたり1人
CHC普及率	98%	92.5%
CHCに医師がいる割合	34%	14%
コミュンの電化率	85.8%	87.4%
コミュンの小学校普及率	98.7%	100%

General Statistical Office, *Statistical Year Book 1999*, Ministry of Health, *Health Statistic Year Book 1999*

*: ゲアン省人口・家族計画委員会「1998年人口・家族計画活動実現状況報告」(ベトナム語)

●プロジェクト事務所:

JICA Reproductive Health Project Office
c/o MCH/FP Center, Nghe An Province
130 Le Hong Phong St., Vinh City
Nghe An Province, Vietnam
Tel: +84-38-833-027
Fax: +84-38-833-088
e-mail: jicavinh@dnq.vnn.vn

●JICAベトナム事務所:

JICA Vietnam Office
11th Floor, Office Tower,
Daeha Business Center,
360 Kim Ma Street
Ba Dinh District, Hanoi, Vietnam
Tel: +84-4-831-5005~5008
Fax: +84-4-831-5009

■発行 (財)ジョイセフ

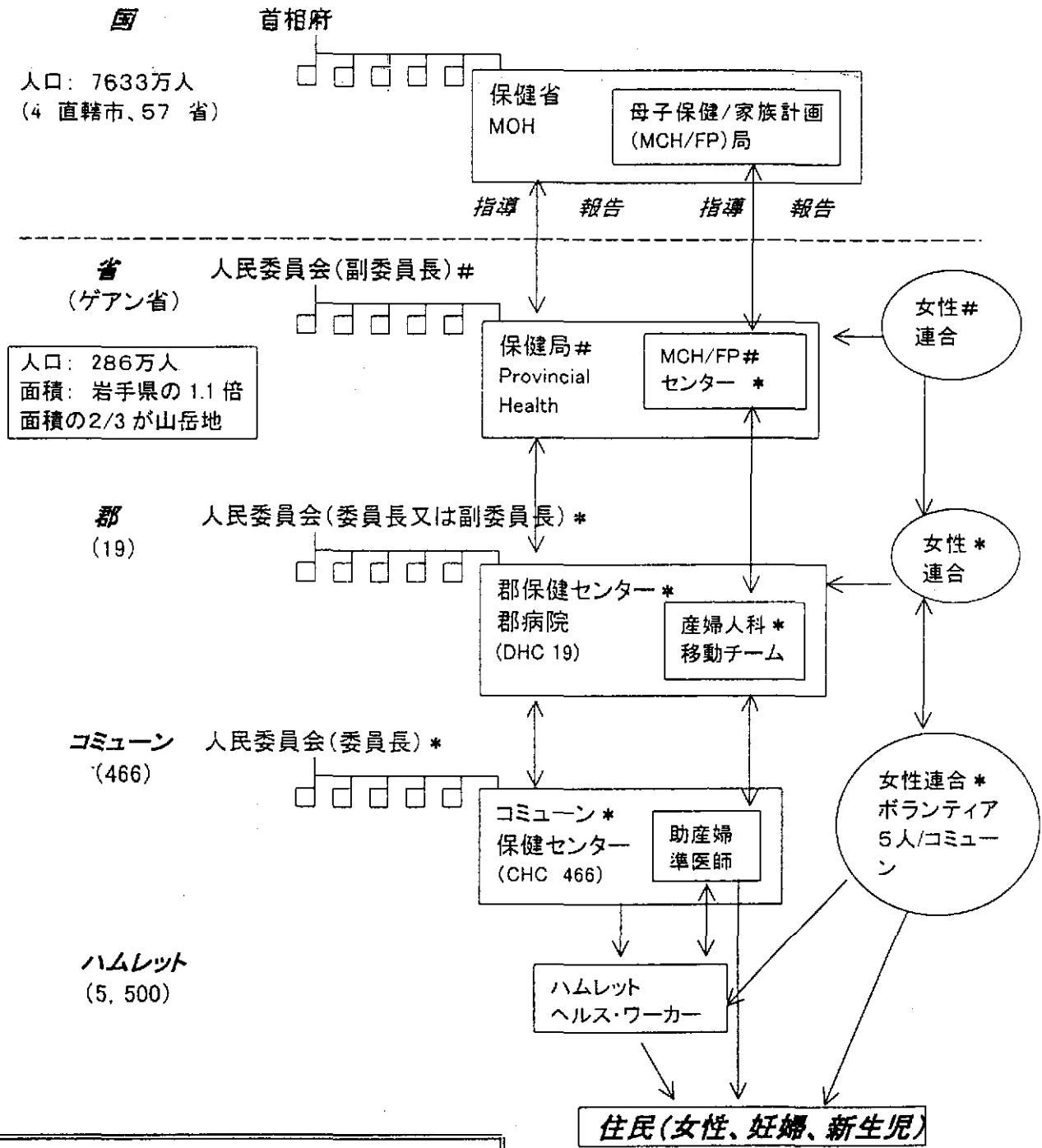
〒162-0843 新宿区市谷町1-10 保健会館新館
Tel: 03-5227-7140/03-3268-5875
Fax: 03-5227-7140/03-3235-7090
e-mail: mk01-joy@kt.rim.or.jp

■監修 国際協力事業団(JICA)

医療協力部 医療協力第一課
〒151-0053 渋谷区代々木2-1 新宿メインスタワー
Tel: 03-5352-5226 Fax: 03-5352-5320

JICA RH Project Phase II

JICA RH プロジェクト実施組織図



#: 合同調整委員会越側メンバー
*印: JICA RH プロジェクト運営委員会メンバー (計: 1,480人)
省レベル: 3人 (MCH/FP センター)
郡レベル: 4人 x 19郡 = 76人
コミュニティレベル: 3人 x 466 = 1,398人

コミュニティにおける女性連合ボランティア
5人 x 466 = 2,330人

データ: 1999年4月現在

平成 13 年度地域別調整員会議報告書より

- ・平成 9 年から S V 派遣が開始され、急激に増えている。今迄は他の事業との連携も数の確保が優先されてきた為、事務所の中でも細かい打ち合わせ議論がまだなされていないのが現状である。
- ・今実施されているのは、専門家、S V、S O D C が連携して、タイをアジア地区の自動車産業のハブにしようと、自動車関連中小企業育成を実施し、1 年が経過している。また、専門家との連携で雇用政策（職業安定所）での活動がある。

ウエトナム事務所

1 現在進行中の事例：ゲアン省リプロダクティブヘルズプロジェクト（RHP）⇔JOCV（助産婦）

(1) ゲアン省派遣中の専門家等及び JOCV（平成 13 年 12 月 11 日現在）

専門家： リーダー（JOICEP 所属）、助産婦 1 名、保健婦 1 名（ともに JOCV 経験者）、調整員。

ゲアン省全体の母子保健を統括する『母子保健・家族計画センター（MCH/FP センター）』に RHP 事務所所在。

JOCV：助産婦 3 名が同プロジェクト対象の 11 部ヘルセンター（DHC）にそれぞれ配属。

(2) 活動内容

プロジェクト：ゲアン省母子保健の向上を主たる目的として、保健省及びゲアン省保健局と連携をとりながら郡・村落レベルの助産婦を対象に集合研修、巡回指導等を行うとともに、DHC・村落ヘルセンター（CHC）に対する機材供与、技術研修そして省の MCH/FP センターに対する運営・管理能力向上のための各種の技術協力を行っている。

JOCV：それぞれ異なる DHC において、助産業務の向上を主たる目的として活動。郡内の CHC 助産婦及び妊産婦（場合によっては家族を含む。）を対象として、配属先スタッフとともに巡回指導も実施している。

(3) 主な連携の内容

① 月例ミーティング（場所：RHP 事務所）

主な内容：

- ・ RHP 側から保健省及びゲアン省保健局の動向・情報を隊員に提供。
- ・ 隊員側からは、DHC 及び CHC の現況報告
- ・ 互いの活動上の課題について検討する。

効果 → RHP 側は、実施した研修の効果・供与した機材の使用状況・その他の課題について、現場にいる隊員から情報を収集することにより、活動目標及び結果の良否についてより明確に認識することが可能となる。

隊員側は、目の前にある問題の原因・背景及び、上部機関の動きとその影響を受ける現場の状況等について有機的に認識することが可能となる（派遣国における活動の位置付けを明確にする。）。

② RHP が研修を実施する際、JOCV も参加し、各 DHC における効果の浸透を図る。

効果 → 参加者多数のため、隊員の補助によって、より木目細かな研修実施できる。

また現場においては、隊員が研修効果をモニタリングの上フォローする役割を果たすことが可能となる。

他方、隊員側は、専門家による質の高い『指導の実践』を目の当たりにすることによって、経験上有していた知識・技術の強化及び新しい知識・技術の習得等がなされることから、一助産婦としての技量を向上させることが可能となる。

- ③ RHP が CHC 助産婦を対象に巡回指導する際、対象地域であれば JOCV も参加の上、補助的業務を行う。

効果 → ②と同様。

- ④ RHP 活動のパイロットスタディを JOCV が配属されている郡において実施。

効果 → ゲアン省全体に拡大する前の新しい試みを JOCV が配属されている郡において実施することにより、活動の効果や課題について、現場にいる隊員から詳細な情報が入手でき、適切な活動戦略を立てることが可能となる。

(4) JOCV 派遣前に打合せて確認した事項

RHP における隊員活動の位置付け、隊員側の RHP の位置付け、連携の具体的な内容、連絡方法及び手順、経費の分担等。

RHP リーダー及び調整員と事務所（所長、次長、担当所員、調整員）が、右事項について適宜打合せの上、共通認識を持つよう努めた。

(5) 今後の本件における新規連携

来年 7 月には医療関連情報にかかる統計の専門家が赴任予定。

統計専門家赴任に合わせて、SE の隊員を要請（H13 秋募集対象）。

クインリュウ郡ヘルセンターが助産婦を要請（H13 秋募集対象）。

SE 隊員要請背景：

ゲアン省保健局は、RHP に対して保健医療情報管理システムにかかる協力を要請。同システムの導入は、平成 13 年度後半から保健省・UNFPA との協力のもとで実施予定。

他方、医療データの CP 化を目的とした同システムの導入には専門の技術者が不可欠でありながら、右業務を担当する同局計画課には経験の浅い（短大卒後 3 年）技術者しかいない。

新規保健医療情報管理システムの実行計画参加及び運用・管理にかかる改善への協力、省病院及び郡保健所の CP 管理者・データ入力者に対する技術向上支援、ゲアン省母子保健家族計画センターの CP 化支援、DHC への巡回指導が主な活動内容となる。

何れも RHP（主に統計分野の専門家）との連携及び、上記システム運用時のトラブルシューティング手法に重点を置いて活動する。

期待される効果：

各 DHC における CP の使用方法については、RHP が研修を実施（隊員参加）しているものの、専門的な知識が不足していることから、今後上記システム運用時に問題が発生した場合の対応マニュアルの作成、及びシステム自体の改善案の作成等、同システムが円滑に運営されるための効果が期待される。また、SE 隊員が RHP だけではなく助産婦隊員とも連携することによって、DHC 同システム使用者の CP 技

術向上が期待される。

(6) JOCVと専門家がより良い連携を探る上で留意すべき事項(事務所所見)
本件が、円滑な連携を実現させている要因として以下のことが挙げられる。

- ① RHPリーダーがJOCV事業の趣旨をよく理解している。
- ② RHP内のJOCV経験者の存在(隊員へのアドバイスに説得力がある。)
- ③ 赴任時にRHP側がブリーフィングを実施していることから、隊員が専門家の立場、活動内容をある程度理解している(連携に対する積極的な姿勢を醸成する上で重要な下地である。)
- ④ 互いに『相互補完』の関係にあると認識している(互いの立場を尊重、考慮しつつ活動する。)
- ⑤ 同一の職場に配置されていない(隊員活動の自発性・柔軟性が保たれている。)
- ⑥ RHP専門家が「隊員を同職種の後輩として育成する。」という視点を有している(隊員が自ら考える余地を与えている。)
- ⑦ ボランティア調整員・RHP・担当所員が、適宜連絡・情報交換している(双方の活動が円滑に遂行されるようはかる。)
- ⑧ 派遣前研修中にJOICEP(プロジェクト支援部隊)においてプロジェクトのオリエンテーションを受けている。

2 その他、現在計画中又はヴィエトナム側と協議中の連携案件及び事例：

北部医療協力プログラム、初等教育セクタープログラム、メコンデルタ酸性硫酸塩
土壌造林技術開発計画、専門家分科会にシニア海外ボランティアが出席 etc……。

インドネシア事務所

プログラム協力としてのボランティア事業

1. 実施体制
 - ・ JOCV, SV調整員のボランティア調整員としての一本化
 - ・ セクター別担当制の導入(事業班担当との連携重視)
2. 事業の位置付け
 - ・ 統一要望調査によるSV案件の発掘
 - ・ 国別事業実施計画ローリングプランへの明確な位置付け

問題点をクリアするためのアイデア。

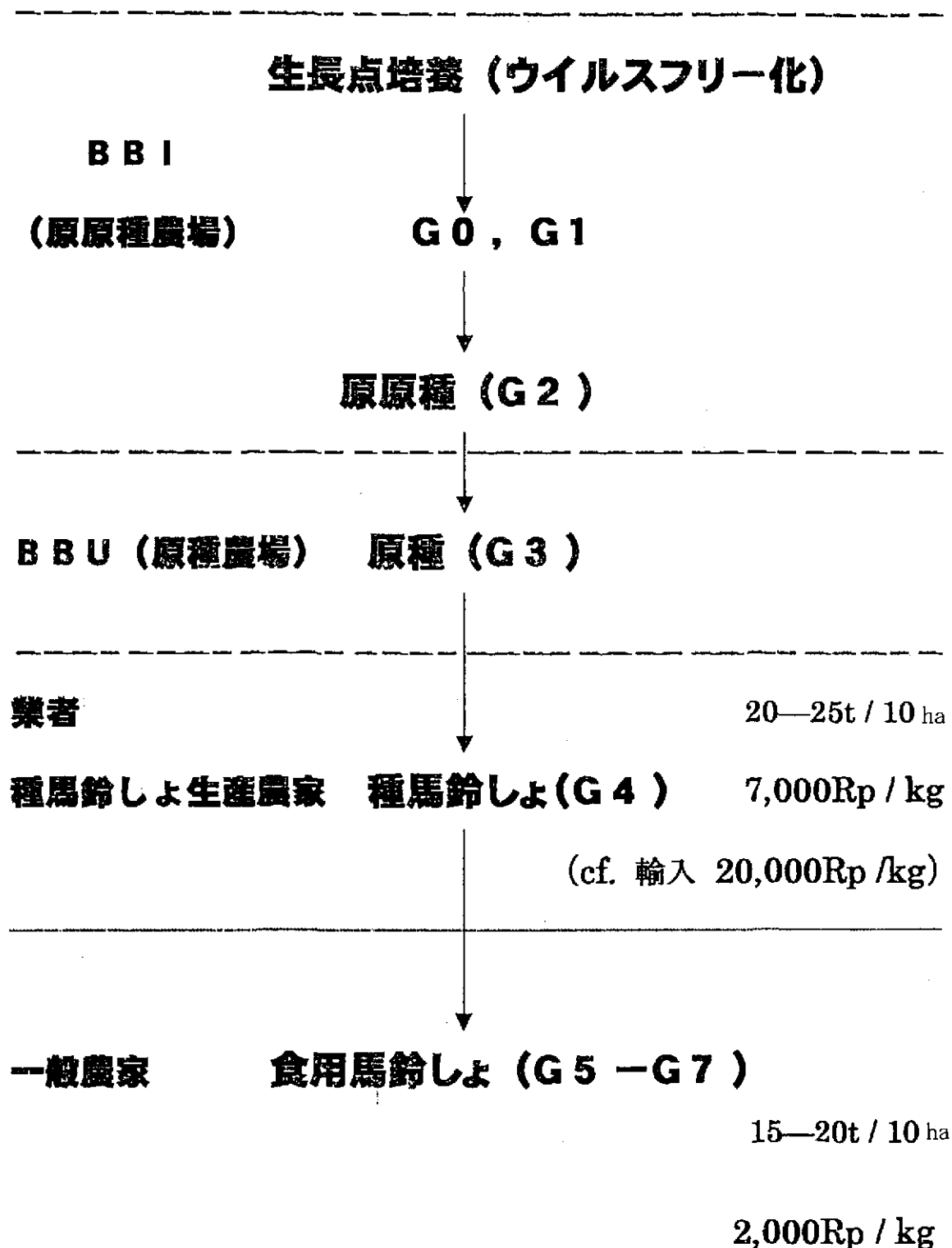
1. 専門家派遣とボランティア派遣との境界線の明確化
 - ・ 個別専門家とSVとの境界線の明確化
 - － 個別専門家＝中央省庁政策アドバイザー
 - － SV＝技術移転型
2. プロ技、既派遣専門家との連携
 - ・ セクター別勉強会の推進とSV、JOCVの参加

インドネシア
優良種馬鈴しょ増殖システム整備計画

2002年 3月

チーフ・アドバイザー
新野 謙司

優良（無病）種馬鈴しょ増殖フロー



プロジェクトの沿革

第一フェーズ（1992～1997年）

西ジャワ州の優良種馬鈴しょ生産技術の
確立と研修

第二フェーズ（1998年～2003年）

（1）全国のモデルとしての西ジャワ州

の種馬鈴しょ増殖システム確立

- ・ 生産技術の高度化
- ・ 生産農家の育成・指導
- ・ 流通の改善

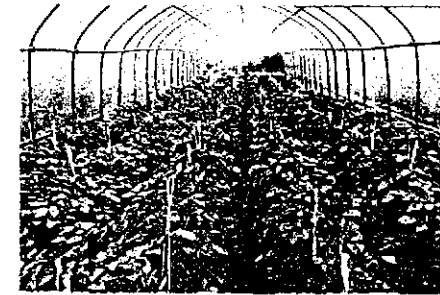
（2）西ジャワ州の成果の全国展開

- ・ 他6州に対する研修
- ・ " " への原原種の提供

Figure 2
Seed Potato Distribution System among 7 Provinces

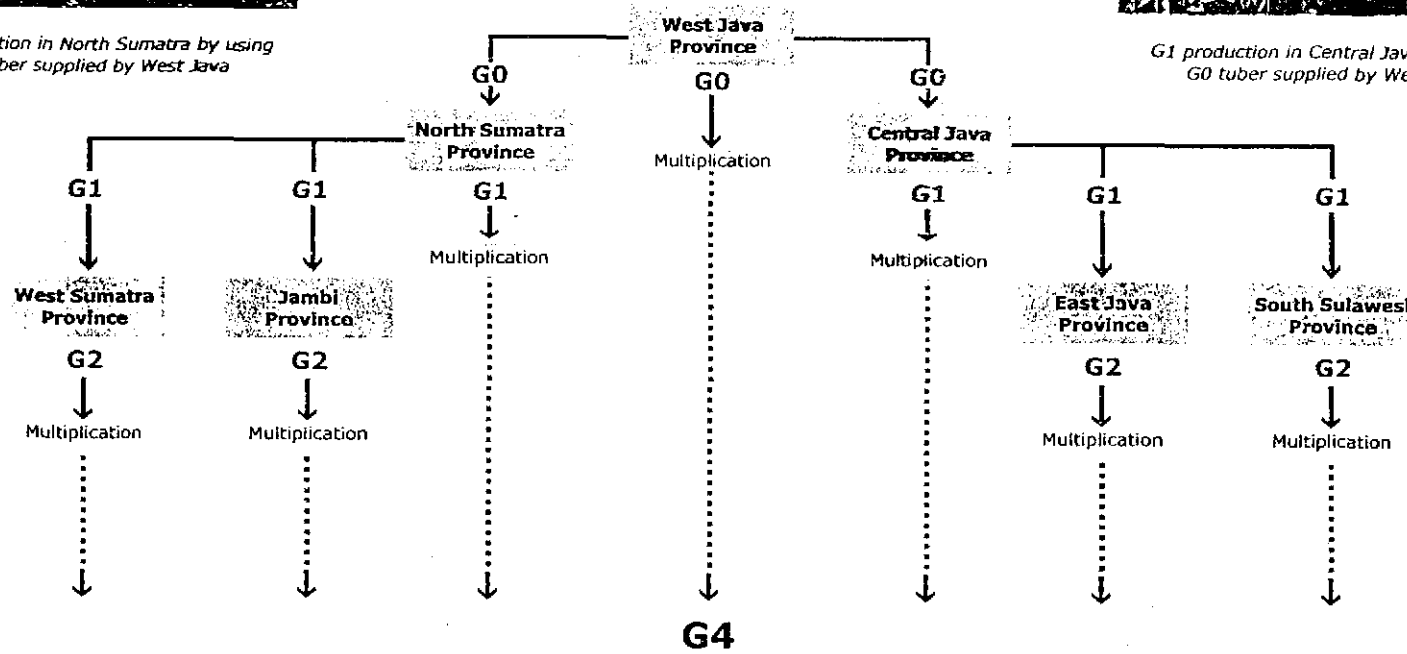


Locally Coordinated by:
Ministry of Agriculture
 Directorate General of Horticulture Production
 Directorate of Horticulture Seeding



G1 production in North Sumatra by using G0 tuber supplied by West Java

G1 production in Central Java by using G0 tuber supplied by West Java



サステナブル・システムへの取り組み

- ・ **生産技術の確立**

- ・ **流通システムの確立**

流通ルート、価格形成、情報収集・提供

- ・ **実用化・普及手法の確立**

指導体制の明確化、技術モニタリングと支援

研修手法の確立・実施、情報サービス、宣伝

- ・ **アドミ支援体制の確立**

行政指導・調整機能の保持、予算、人員配置

規制緩和、組織化支援、研修制度、融資制度

- ・ **「金儲け」実現による参加意欲の醸成**


- ・ **民間活力の活用**

事業者の参加奨励、組織化と組織活動の奨励

規制緩和、技術指導その他支援措置、情報の開示

課題別研究会議事例紹介

持続性確保に向けた取組み



平成14年3月27日

◆報告者：長井 薫

◆プロジェクト：ラオス・ヴィエンチャン県農業農村開発計画II

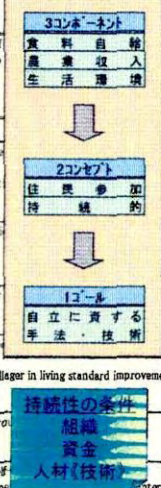
◆実施期間：平成9年11月1日～平成14年10月31日

プロジェクトの枠組みと活動方針

	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次
プロジェクト活動期別	専門家主導		中間評価	カウンターパート主導	
プロジェクト目標	住民参加型持続的農業農村開発の手法・技術をヴィエンチャン県の5村で確立すること				
基本コンセプト	住民参加型アプローチ、持続的開発				
活動ステップ	着手	試行 調整	啓蒙	普及 定着	促進 達成 完了
農業農村開発計画	住民組織(VDC)の 設立・育成		組織強化 実践的活動支援 組織活動の自立化		
農業基盤整備	ハードコンポーネント活動中心 ・調査・測量・設計 ・施工・監理		ソフトコンポーネント活動中心 ・施設操作・維持・管理 ・住民参加工事 → 自立的水利グループ活動		
農業生産	稲作技術導入・試行 商品性作物(栽培技術)の導入・ 試行		モデル的栽培技術の普及・確立 → 自立的生产グループ活動		

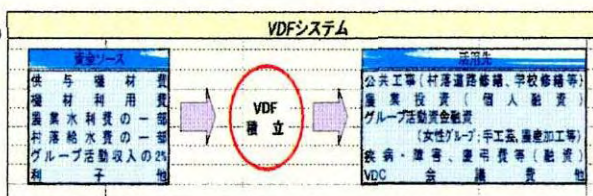
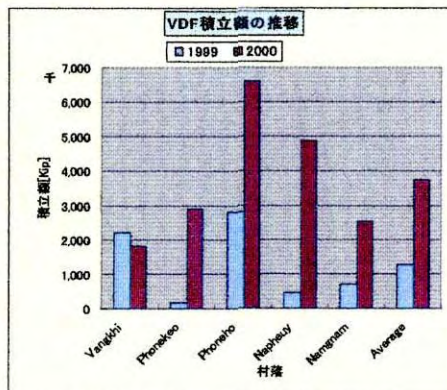
活動目標・成果の具体化

プロジェクトの要約	新指標	現行の指標(計2中選評価時)
上位目標 ヴィエンチャン県で農業農村開発が促進される。		Number of agricultural and rural development project in Vientiane Province.
プロジェクト目標 1. VDC自らがVDPの核となる計画(戦略コンポーネントに関連する計画)を達成でき、住民参加型の農業農村開発の手法と技術がヴィエンチャンの6村で確立される。 2. ラオカウンターベートの能力が事業期間の現地活動及び研修を通して、5段階評価の4段階以上まで向上する。		1. The number of self-organized VDCs 2. The number of Lao VDCs
プロジェクトの成果 (1) 農業農村開発プロジェクトの計画、実施、及び評価手法が改善される。 (2) 農業生産設備の修理技術が確立される。 (3) 地域に適した米、その他作物、畜産、養蚕の農業生産技術が確立される。 (4) 生活環境の整備技術が確立される。 (5) 農民組織化と運営手法が強化される。 (6) 農民、村務リーダー及び政府職員の実質が向上する。	1. プロジェクト終了時点で、三分野の開発活動(各コンポーネントから一つ)を含む一つのVDPがVDCとC/Psによって計画、実施、評価される。 1.2. プロジェクト終了時点で、5つのVDCそれぞれが三分野の少なくとも一分野を含む3つ以上の開発活動をC/Psとともに実施する。 2. プロジェクト終了時点で、C/Psが設計、施工管理し、VDC(水利グループ)によって運営、維持管理される農業施設の少なくとも1つで、計画面積の90%以上が完成される。 3. プロジェクト4年次までに試作、展示、紹介された技術のうち少なくとも5つが、プロジェクト終了時点で継続的に村人に採用される。 4.1. 水供給施設がVDC(水利グループ)によって維持管理され、プロジェクト終了時にその70%が利用可能な状態にある。 4.2. プロジェクトによって改善された村営道路の維持管理が村人によって継続される。 5. プロジェクト終了時以降継続的に、少なくとも3つのコンポーネントに関連するグループが、その活動の中で自主的ミーティングを開催し、参加する村人の数が維持される。 6.1. 農民研修が継続的にC/Psの自主的な運営の下に開催され、技術が村人に移転される。 6.2. 研修参加者がそれぞれの村で研修内容を村民に紹介普及することをルール化するとともにそれに関連するミーティングが開催される。	1.1 Progress of village approach 1.2 Number of activities concerned 2.1 Number of agricultural facilities 3.1 Area and number of projects 4.1 number of projects for water supply improvement 4.2 The number of villagers in living standard improvement 5.1 The number of groups 6.1 The number of self-organized groups 6.2 The number of meetings in the total meeting



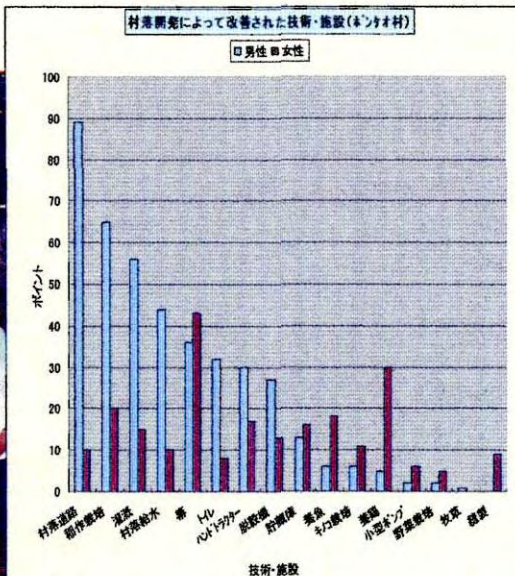
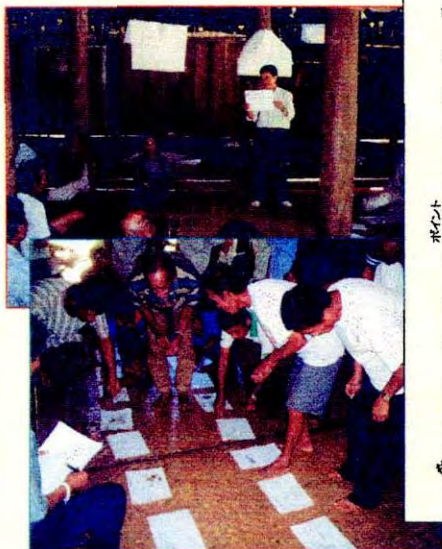
具体的な活動成果： 農業農村開発計画

- ◆ VDCの設立
 - ◆ グループ活動
 - ◆ 役員任命
 - ◆ 運営規約制定
 - ◆ 四半期会合及び年度合同会合
 - ◆ 参加率： ほぼ100%
- ◆ 進むVDFの積立
 - ◆ 機械利用費、水利費等の積立
 - ◆ 貸出規約制定
 - ◆ 貸出事例の取組中
- ◆ VDP手法
 - ◆ 各村PDM作成(初年度)
 - ◆ 年度活動計画
 - ◆ 活動結果の評価
 - ◆ PRA手法の試行



活動結果の評価： PRA手法の試行

C/Ps(モテレーター)による進行及び投票状況



村落活動で改善された技術等

活動事例(農業農村開発計画)

リポリング活動	村落名称	第1グループ	第2グループ	期待される第3グループ
養蠶	Vangkhi	1998年10月	2001年6月	
	Phonekeo	1998年10月 1999年1月	2000年12月	2002年
	Napheuy	1999年1月	2000年12月	2002年
	Namgnam	1999年9月		
養豚	Phoneho	1998年10月	1999年11月	2002年

ジェンダー配慮
(女性開発と
畜産開発)
の成果

具体的な活動成果： 農業基盤整備

- ◆ ハードからソフトへ
 - ◆ 末端水利施設等住民参加工事；良好な参加状況
 - ◆ OM&Mセミナー研修
 - ◆ 住民意識の向上
 - ◆ 一公共財産、多面的利用等有効施設等々
 - ◆ 水利費徴収率の向上

活動事例

村落別住民参加工事リスト2000-2001		
村落	工事内容	工事量
ナムニヤム	道路横断カルバート工	3箇所
ボンケオ	排水路カルバート工、堰堤保護工他	7箇所
ナプイ	水路ライニング工、余水吐他	500m、3箇所
ボンホ	道路横断カルバート工他	5箇所



住民による施設の建設



◆ 村落道路の修繕・管理

- ◆ 住民参加(労務提供)に定期的な維持管理
- ◆ 近隣村落との共同出資による道路修繕 (C/Psが調整)

住民による道路の管理

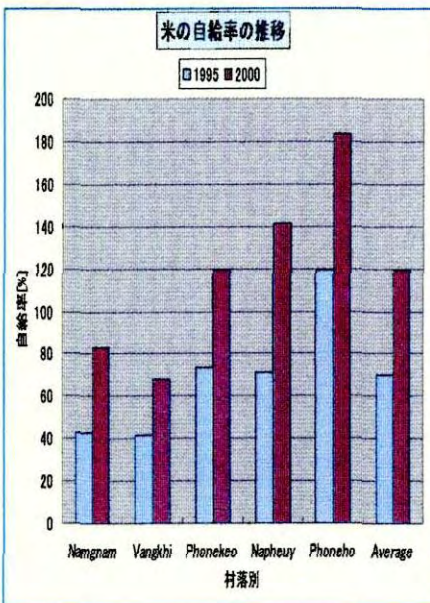


村落連絡道路の侵食状況



具体的な活動成果： 農業生産

- ◆ 米の自給率の向上
 - ◆ 優良品種(種子)の導入
 - ◆ 適正肥料の実証
 - ◆ 田面均平等
- ◆ 農業収入への貢献
 - ◆ 多様な作物の試行・導入
 - ◆ 野菜、畜産(小家畜)、果物、キノコ、養魚等のサブグループ活動
 - ◆ 村落毎の特産作物が定着
- ◆ モデル栽培技術の導入
 ⇒ 持続的農業
 - ◆ 環境配慮(自然農薬・技術)
 - ◆ 資源有効利用(キノコ)
 - ◆ 雨除栽培(野菜)
 - ◆ インフラとの連携：
 - 畑地灌漑技術
 - ◆ 自転車ポンプ、水車ポンプ



活動事例(農業生産)

トマトの接木栽培技術導入を伝える記事

VIENTIANE TIMES March 20 - 22, 2001 Latest market gardening technology hits Laos

THE introduction of new cultivation technologies, which improve fruit quality and contribute to disease resistance, is expected to boost farming incomes and rural living standards.

The Vientiane Agriculture and Rural Development Project (VARDP), supported by Japan International Cooperation Agency (JICA), plans to introduce the new technology along with new kinds of vegetables and fruit trees to targeted villages in Vientiane province.

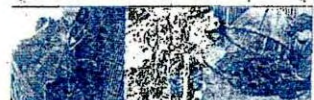
According to Dr. K. Nakasono, a JICA expert, almost all vegetables and fruit trees suffer from infection by preventable diseases, sometimes and get losses by both the dry and rainy seasons. Farmers are unable to harvest a profitable crop without countermeasures for controlling these damaging organisms. The cultivation of delicious Lao tomatoes in particular is nearly impossible during the rainy season because of wilt disease infection.

Tomato plants are infected with

the bacterial pathogen (*Pseudomonas solanacearum*) and virtually all plants die at the flowering stage of growth after showing wilt symptoms. An effective way to control this disease is to graft young tomato seedlings onto resistant varieties of crops. JICA experts introduced a new tomato grafting method called "bamboo-pin grafting", which is a very simple and effective technique.

The technique requires only a razor blade, a hand-made bamboo pin, and a wet-chamber for grafting. A variety of local eggplants are used as the rootstock.

First, the rootstocks are grown in pots and the tomatoes in seedbeds. The bamboo pin is inserted into the rootstock, and then the tomato sample is attached to the rootstock by pushing it down onto the pin. Finally, the grafted plants are kept within a wet-chamber for three to four days in the shade. The use of this new grafting technology in Laos will greatly improve tomato cultivation in the rainy season.



After up to the first tomato plants grafted to support the article. The wet chamber covers rootstock tomato crops. A wet chamber consisting of a plastic sheet and bamboo frame for containing grafted tomatoes.



キノコ栽培研修及び実習(他の村落への普及、講師は対象村落のVDC役員)

水稲実証試験地の準備。マーカ-を利用した田植え方の導入・展示



C/Ps活動の事例

Check Sheet for JSC reparation									
Date	Contents	Demander		Team		The No. of JSCs	The No. of JSCs	Person Assigned	Remarks
		Number	Unit	Number	Unit				
1. Starting Date	2008/01/01	0	0	0	0	0	0		
2. Starting Venue	Changshu	0	0	0	0	0	0		
3. Agenda	1. Survey 2. Repair	0	0	0	0	0	0		
4. Document	4.1. Map 4.2. List 4.3. Report	0	0	0	0	0	0		
5. Personnel	5.1. JSCs 5.2. JSCs 5.3. JSCs	0	0	0	0	0	0		
6. Participants	6.1. JSCs 6.2. JSCs 6.3. JSCs	0	0	0	0	0	0		
7. Participants	7.1. JSCs 7.2. JSCs 7.3. JSCs	0	0	0	0	0	0		
8. Participants	8.1. JSCs 8.2. JSCs 8.3. JSCs	0	0	0	0	0	0		
9. Participants	9.1. JSCs 9.2. JSCs 9.3. JSCs	0	0	0	0	0	0		
10. Participants	10.1. JSCs 10.2. JSCs 10.3. JSCs	0	0	0	0	0	0		



C/Ps主導による
水稲栽培現地実習



村落道路改修の
設計をするC/Ps

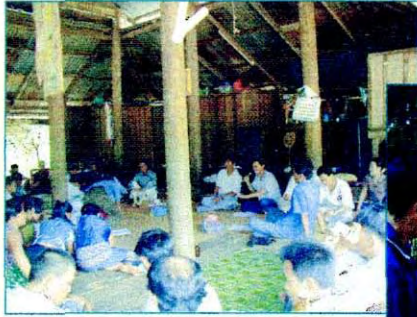
AQIP, FORCAP等他事業との連携

- ◆ AQIPとの連携
 - ◆ 対象2村落での養魚の現況・ニーズ調査
 - ◆ 女性活動支援方策の検討
- ◆ FORCAPとの連携
 - ◆ バンキー村での連携;
アグロ・フォレストリーの試行・導入
 - ◆ PAFO, DAFOへの働きかけ
- ◆ 開発福祉支援事業(生活環境整備)の実施支援
 - ◆ 村落給水施設の整備
 - ◆ トイレの整備
 - ◆ 衛生セミナー等開催
- ◆ 青年海外協力隊(農業土木)との共同活動
 - ◆ 測量、コンクリート構造物施工共同セミナーの開催
- ◆ NGO(JVC等)との協調、活動支援



測量研修

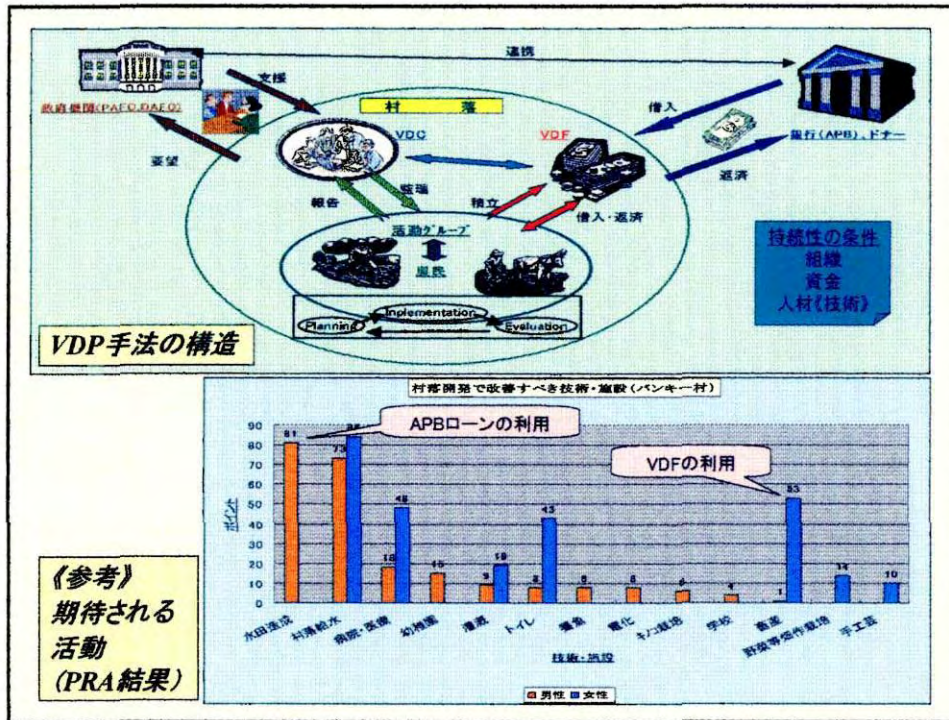
- ◆ 村落給水施設の整備
→進む生活環境の改善
- ◆ 管理研修、衛生セミナー等は計画分野主導で実施中
- ◆ サブ・グループ毎の井戸管理(費用徴収)



衛生セミナー

ナムニャム村の水道施設
(6サブグループで共同管理)
の維持管理研修





事業推進体制:組織の役割分担

- ◆ 開発主体: 村落住民(VDC)
- ◆ 政府機関・カウンターパートの役割: 住民活動支援
- ◆ 各組織の役割分担
 - ◆ 中央政府: 長期計画、政策
 - ◆ 地方分権(財源の村落への一部移譲)の推進
 - ◆ 灌漑局: CMI(1997), JMT(1998)の推進 *プロジェクトコンセプトが反映
 - ◆ 県政府: 制度企画運営、計画・予算管理及び普及員等の育成
 - ◆ 郡政府: 村落指導、営農普及活動等

農業農村開発の推進体制				
組織	オーナーシップ	資金	任務	備考
農林省		KR2資金(例) 税収等	長期計画、政策	(全国展開)
県農林部	◎ (制度運営主体)	開発ファンド (仮称) 税収等	制度化 計画策定(アクションプラン) 道路等 公共工事	研修施設: 人材育成 (普及員、村落リーダー等) プロジェクト事務所
郡農林事務所		*資金、機材等の供与	ニーズの把握 調整 普及指導	普及指導員
村落・VDC	○ (実施主体)	VDF 税収、融資	自立的活動	村落リーダー等